

令和5年4月5日

市民の皆さまへ

庄原市役所 口和支所長
(総務室)

Tel. 0824-87-2111

fax. 0824-87-2057

行政文書の発行について

令和5年4月5日付けの行政文書をつぎのとおり発行します。



<回 覧>

1	新型コロナワクチン令和5年度の追加接種について	ワクチン接種対策部
	令和5年度有害鳥獣防除事業実施のお知らせ	企 画 振 興 部 課 林 業 振 興
2	まちづくり応援補助金のご案内	企 画 振 興 部 課 自 治 定 住
3	住宅リフォーム支援事業	環 境 建 設 部 課 都 市 整 備
4	環境しょうばら	環 境 建 設 部 課 環 境 政 策
5	やまどり 令和5年4月号	庄 原 警 察 署 所 口 和 駐 在
	犯罪情報官速報	
6	令和5年度 要約筆記入門講座のご案内	生 活 福 祉 部 課 社 会 福 祉
	令和5年度・前期 手話入門講座	

裏面へ続く

7	春の美クリーン運動	口 地	和 域	支 振	興 所	室
8	しょうばらの文化 第33号	口 教	和 育	支 所	室	
9	防犯ひろしま	口 総	和 務	支 所	室	

<各戸配布>

1	広報しょうばら 4月号	総 行	政	務 管	理	部 課
2						
3						
4						
5						

広島県人は、放つとけん人。「地域の子どもは、放つとけん人!」「暗い夜道は、放つとけん人!」

春の連休期間中における山岳遭難の防止 ～安全な春山登山のために～

これから家族やグループで春山登山をされる方も多くなりますが、体力・技術・経験に応じた山を選び、現地の気象状況や登山ルートなどをよく確認して入山することや、少しでも不安を感じたら無理な行動を避けて、「引き返す勇気」を持つことが必要です。

春山登山をされる方は、次の点に留意してください

- 無理のない登山計画を立て、登山届を提出しましょう。
手軽に登れる山岳こそ事前の準備不足などにより、遭難する危険性が隠れています。万が一の際に備えて、登山届を作成して山岳を管轄する警察署に提出しておきましょう。
- 装備品、服装を整えましょう。
装備品は入山前に十分点検して取り扱いをよく確認し、ある程度幅広い気温や天候に対応できる服装を選びましょう。
- 現地の気象や山の状況をしっかり把握しましょう。
現地の気象情報や登山ルートの状況などについて情報を入手し、場合によっては計画を変更しましょう。
- なるべく複数人で登山しましょう。



発行
庄原警察署
口和駐在所
川東 哲也
TEL 87-2233

やまどり

野焼きによる農作業事故に注意

この時期に、野焼きによる農作業事故（火災）が多発します。

☆ 注意事項

- 1 風の強い日に行わない。
- 2 水入りのバケツや消火器等消火の準備を行う。
- 3 火を消すまで、その場を離れない。（火から目を離さない）
- 4 燃やす量を調整する。

※ なお「ゴミ」の焼却は禁止されています。（廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反）

自転車の交通ルールを守って安全に利用しましょう!

自転車は誰でも利用できる手軽で便利な乗り物である反面、交通ルールを守らなかったり危険な乗り方をするなど、交通事故の被害者になるだけでなく加害者にもなり得る危険な乗り物でもあります。

自転車乗車時も、車と同様に信号や一時停止を守るなど決められた交通ルールに従って運転する必要があります。

また、令和5年4月1日からは、従来からの交通ルールに加えて、

- ・ 乗車用ヘルメットの着用が努力義務
- ・ 広島県においても自転車保険への加入が義務化

となりますので、ルールを守って安全な自転車利用に努めましょう!



管内の事件・事故発生状況

区分		2月末現在	前年同期比
事件	刑 窃盗犯	5件	+4件
	法 その他	6件	±0件
	犯 合計	11件	+4件
	特殊詐欺	0件	±0件
事故	人身事故 件数	3件	+1件
	死者	0人	±0人
	負傷者	3人	+1人
	物損事故	133件	-29件

マイカー利用の自粛にご協力をお願いします

★ G7サミットに伴う交通規制予想日

令和5年5月18日（木）～22日（月）

サミット期間中とその前後は、できる限り電車等の公共交通機関を利用してください!

バスや路面電車は交通規制の影響が考えられますので、各事業者のホームページ等で運行状況をご確認ください。

G7広島サミット

マイカー利用の自粛にご協力を

令和5年 5月18日（木）～22日（月）

犯罪情報官 速報



ナンバー
プレート

の盗難に注意!

令和4年
0件

急増中!

令和5年
55件

※いずれも2月末現在の暫定値

◇ ナンバープレート を盗まれたら・・・

警察への届出・現場見分、ナンバープレートの再発行、任意保険のナンバー変更、
(出先の場合)自宅までのレッカー搬送、仮ナンバーの申請・・・等々

様々な手続きへの労力や費用が必要です!

※手続きの内容については各種窓口でご確認ください。



◇ ナンバープレート を盗まれないために・・・

防犯カメラの設置など対策は色々ありますが、一番は



盗難防止用のネジ に交換しましょう!

インターネットやカー用品販売店などで、1,000円～4,000円程度で
お買い求めいただけます。ネジの交換は10分程度で簡単にできます。

※「封印」 は外してはいけません! 封印以外のネジを交換しましょう。



専用の工具がないと外れない
構造になっています



自動車の盗難も増加しています。車を離れるときは必ず
エンジンを切ってドアロックをしましょう!

春の



美クリーン運動

春の美クリーンは、ゴミの収集とペットボトルキャップの収集を行いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

と き 令和5年**4月23日(日)** 朝**7**時より

搬入先 **口和自治振興センターの裏**

※搬入先間違いが発生しておりますので、ご注意ください。

ゴミの収集



町内一斉に、道ばた等に投棄されたゴミの収集を行います。

ゴミは3種類（①燃えるゴミ ②燃えないゴミ ③粗大ゴミ）に分別してください。

★ 家庭ごみについては、出さないでください ★

飲料水のペットボトルキャップの収集

世界の子どもたちにワクチンを届けるため、引き続きこの運動に取り組みます。

お願い

ペットボトルキャップは、汚れていては回収してもらえないため、汚れを落とし、よく乾かしたものを搬入してください。

問い合わせ：口和地区公衆衛生推進会事務局(庄原市役所口和支所産業建設係内)
電 話： 0824-87-2113

主催：口和地区公衆衛生推進会／口和自治振興区

第33号

しょうばらの文化

発行者

庄原市文化協会

〒727-0013

庄原市西本町二丁目17-15

庄原市民会館内

発行責任者 渡邊耕三

発行日 令和5年3月31日

No.33

令和四年度

庄原文芸大会入賞作品

(2~3頁)「現代詩の部」「短歌の部」

「俳句の部」「川柳の部」掲載

現代詩の部

庄原市長賞

養殖ゴイの死から見えてくるもの

坂村 廣嗣

三〇年前 広島県北部で発生した
養殖ゴイ大量死事件

「うちの川は 大変なことがおきたんよ」

「ゴイやハヤがたくさん浮いていたんよ」

生徒の切実な訴えに

私の心が動いた

原因は 防ぐ方法は 被害の補償は
事件の概略をまとめて活字にした表彰式 庄原市ふれあいセンター
令和4年11月23日一〇年前 広島県北の地で
産声を上げた備北文学は

今年から幅を広げて

サロンの役割を

担うことになったので

この問題を

備北文学へ投稿することにした

三〇年前の事件を

再度活字にするなかでわかったこと

この事件の原因であった

除草剤マメツトSM

現在も

山形工場で製造・販売されている

ゴイが受けた苦しみ

地域をかえて発生している

先日 被害者農家を訪問

事件当時

県養殖ゴイ協議会の会長として

この問題解決にむけて

精力的に取り組まれたH氏は

一〇年前に逝去されていた

今回

取り上げたリポートを前にして

H夫人は静かに語る

主人は

ゴイと苦楽を共にした人生でした

マメツトSMによる公害で

毎日 毎日 浮いたゴイを

ビニール袋に入れ焼却場に運びました

農政の矛盾が解決されるのは

いつになるのだろうか

コロナ禍における庄原市の文化活動

会長 渡邊耕三

新型コロナウイルスが二〇二〇年一月、日本で確認されて早三年が過ぎようとしているが感染は収まらず、経済活動やコミュニケーション活動に制限が加えられている。

庄原市文化協会の活動も例外なく芸能部門では感染拡大防止のため休会または縮小するなど活動努力をされておられる。そんな状況のなかで昨年度も「けんみん文化祭庄原大会」を中止せざるを得なかった。一方、今年度緊急事態宣言が解除されたことにより東城町小奴可塩原の牛供養田植えでは、無観客ながら古式にのっとり伝承芸能として行われ、比和の牛供養田植えも小規模ではあったが備北丘陵公園において行うことができた。どちらも次世代に継承することを地道に努力されていることに敬意を表するものである。

十月三十日には、東城文化ホールにおいて「けんみん文化祭ひろしま22大正琴・新舞踊の祭典」を、庄原市文化協会が庄原市教育委員会の委託を受け無事盛会に終えることができた。

ウイズコロナのなか、各地域で行われていたイベントや文化祭も本紙に載せてあるように少しづつ復活しつつある。

文芸・美術活動は例年通り「第十八回庄原市美術展覧会」が(十一月三日〜十八日)行われた。また、「第三回庄原市文芸大賞」と合わせて「庄原文藝」の第五十号を発行することができた。さらに、令和四年度「庄原文芸大会」「第十八回絵手紙大賞」を実施することでもできた。また、アート多愛夢での作品展示など会員の多様な活動によって庄原の文化活動は支えられている。

この原稿を書いている時、前文芸部会長林武志氏の計報が入った。「庄原文芸」の第二十七号から第五十号まで二十三年間にわたり編集長を務めてこられ、また小説や川柳など短詩形文芸を創作されライフワークのごとく庄原文化協会の文芸部門の中心で活躍された。昨年の田中虎一さんに続いて「庄原文芸界の巨星たつ」

令和4年度 庄原市文化協会予算書

・収入の部

(単位：円)

費 目	令和3年度決算額	4年度予算額	備 考
前年度繰越金	252	31,232	
補助金	2,000,000	2,000,000	庄原市補助金
委託事業	—	100,000	市教委(子ども文芸等)
会 費	144,000	144,000	庄原48,000円 6支部×16,000円
助成金	50,000	50,000	県文連より(文芸大会)
寄付金	20,000	20,000	庄原市文芸大会「特別賞」4名
雑収入	1	1,001	利子ほか
計	2,214,253	2,346,233	

・支出の部

(単位：円)

費 目	令和3年度決算額	4年度予算額	備 考
事業費			
庄原文芸	350,000	250,000	『庄原文芸第50号』発行
会報発行費	150,000	250,000	「しょうばらの文化」発行
文芸大会	95,261	100,000	短歌・俳句・川柳・現代詩
子ども事業	0	150,000	市教委委託事業ほか
その他	4,220	5,000	
(小計)	599,481	755,000	
事務局費			
事務関係費	165,000	174,000	(監事報酬3,000×3人をプラス)
会議費	27,122	30,000	
通信費	84,219	85,000	
その他	69,199	61,000	印刷・消耗品・役員旅費
(小計)	345,540	350,000	
支部活動費			
庄原支部	170,000	170,000	
東城支部	170,000	170,000	
西城支部	170,000	170,000	
比和支部	200,000	200,000	(郷土史研究会83,000円を含む)
高野支部	150,000	150,000	
口和支部	160,000	160,000	
総領支部	120,000	120,000	
(小計)	1,140,000	1,140,000	
市民ギャラリー助成金	10,000	10,000	市民ギャラリーアート多愛夢
分担金	38,000	40,000	広島県文化団体連合会分担金
慶弔費	0	5,000	
予備費	50,000	46,233	
計	2,183,021	2,346,233	

庄原市文化協会役員

(令和3年度～4年度)

役 職	名 前	備 考
顧問	近 藤 芳 弘	前副会長
〃	清 光 康 子	前会長
会 長	渡 邊 耕 三	比和支部長
副 会 長	明 賀 誠	西城支部長
〃	藤 原 二三幸	東城支部長
〃	廣 澤 伸 高	庄原支部長
幹 事	香 川 篤 子	高野支部長
〃	福 歳 年 行	口和支部長
〃	小 島 由佳利	総領支部長
監 事	岸 昇	庄原支部副支部長
〃	堤 和 之	西城支部監事
〃	柿 原 勤	比和支部副支部長
事務局 長	桑 原 知 樹	(会長が委嘱)
事務局 員	坂 村 廣 嗣	機関紙担当(会長が委嘱)
会 計 委 員	田 中 千鳥子	(会長が委嘱)
文 芸 部 会	小 島 由佳利 澤 松 苗 一 古 家 富 八 千 代	

現代詩の部

庄原市議会議長賞

庄原市教育委員会教育長賞

庄原商工会議所会頭賞

庄原市文化協会会長賞

庄原市社会福祉協議会会長賞

坂村 初子

黒長 澳

山内 久子

折島 哲

大岡 初枝

短歌の部

庄原市長賞

少年は飛行機雲につかまりて
透明になる病の彼方

庄原市議会議長賞

庄原市教育委員会教育長賞

庄原商工会議所会頭賞

庄原市文化協会会長賞

庄原市社会福祉協議会会長賞

古家八千代

松園 和子

有附 和子

吉方 明美

清光 康子

家島 晶子

俳句の部

庄原市長賞

たたら跡雲雀の天となりけり

庄原市議会議長賞

庄原市教育委員会教育長賞

庄原商工会議所会頭賞

稲垣サカエ

三上 敏枝

田宮美和子

木村 淳子

庄原市文化協会会長賞

山崎 靖子

庄原市社会福祉協議会会長賞

新宅 涼枝

川柳の部

庄原市長賞

コスモスがやさしくゆれて母思う

田邊 典子

庄原市議会議長賞

古本 文子

庄原市教育委員会教育長賞

荒木美智子

庄原商工会議所会頭賞

安藤 幸江

庄原市文化協会会長賞

沼本みよ子

庄原市社会福祉協議会会長賞

新宅 道和

令和四年度

けんみん文化祭ひろしま'22

文芸祭

広島県民文化センター(12/11)

現代詩(一般の部)

広島県知事賞

一握りの砂

奥井 久子

「本川小学校の砂場の砂」
父がぼそつと言う
藍染の日本手拭の上に
一握りの砂があった
祖父母と父と母とわたし
仏間のテーブルの上の砂を囲んで座っ
ている
祖母の呻くような鳴き声を
ひぐらしの激しい鳴き声が消していた
(以下略)

短歌(一般の部)

入選

古家八千代 松園 和子
新宅 涼枝

俳句(一般の部)

広島県知事賞

田水張る地球平らに千枚田 永宗 敏昭

川柳(高校生・一般の部)

入選

荒木美智子

大正琴・新舞踊の祭典

東城文化ホール(10/30)

午前の部 大正琴

琴城流大正琴 東城支部

1. 栄光の架橋

2. どうにもとまらない

名越 愛子・村上 静子・山田 博子
小塩 麗子・児玉力ナ子・竹本 町子
山田三枝子・石井 愛子・井上 京子
白岩美恵子・藤原 明子・妹尾 和子
山下 栄子・美能 順子・武田 史子

午後の部 新舞踊

花ノ本寿百弘社中

恋未練

田辺 明子

石川 洋子

宮原 幸恵



庄原市

第十八回庄原市美術展覧会

前期展〔工芸・書〕

令和4・11・3～11・9

後期展〔絵画・写真〕

令和4・11・12～18

庄原市田園文化センター

前期展〔彫塑・工芸・書〕

〔工芸〕

奨励賞

孫の靴

福ヨコイ

〔書（かな・調和体）〕

大賞

タされば

奨励賞

このたびは

秋かぜに

雪積つて

〔書（漢字）〕

大賞

祇園精舎の鐘の声

奨励賞

白居易の詩

雲外蒼天

横山 長子
黒田 勝郎

比原 昭子

村田 玲舟

荒木 美舟

森藤 礼子

滝口美樹子

中村 圭
佐々木智也

後期展〔絵画・写真〕
〔絵画〕
奨励賞
蜘蛛の糸
城山のふもとで…

〔写真〕

奨励賞

晩秋映じる

難波ふく枝
高橋 秀典

中廣 満



第10回新県美展（第74回広島県美術展）

入選

絵画

山下 徳三（峰田町）

工芸

中本 春雄（上原町）

書

谷口 菁波（比和町）

黒田 勝美（東本町）

正宗 直子（川北町）

比原 昭子（西城町）

写真

佐々木悦子（東城町）

川柳作品

◇コスモスがやさしくゆれて母思う

田邊 典子

◇書くことで心ほぐれてまた一歩

古本 文子

◇働いて働いてきて今の幸

荒木美智子

◇厳しさも優しさも知るこの軍手

安藤 幸江

◇言わぬがいい言えばやっぱり愚痴になる

沼本みよ子

◇恋の予感いつも予感で終わってた

新宅 道和

〈川柳メンバー募集〉

川柳と一緒につくるメンバーを募集しています。

個人的に作っておられる方も大歓迎です。

連絡先は次のとおりです。

庄原市文化協会庄原支部／川柳の会の準備担当者

古本文子

（0824-7218055）

庄原土筆短歌会 代表 橘 京子

合同歌集（第十集）

二〇二二（令和四）年三月刊

おふし

短歌会の会員十五人の短歌を掲載

A5判 一三三頁

この度土筆短歌会合同歌集第十集を発刊することができました。一九八一（昭和五十六）年土筆歌壇として発足以来合同歌集を四〇五年おきに発刊しました。その間歴代の指導者の方々や多くの先輩方の並々ならぬご努力と熱意の賜物と深く敬意を表すものであります。毎月一回の学習会も今年の三月で五百四回目を迎えることになりました。



ひばやま
比婆山短歌会

代表 山本照子

妻逝きて四十九も終え百日も
経て秋の虫鳴きはじめてたり
一人では出来ぬことあり取りあえず
背に貼り葉餅つき漬け物

(講師) 藤井逸馬

庭畑に厄介者の草なれど

花実急げばいじらしくあり

挿木して根付きしバラに一輪の

蕾ふくらみ心膨らむ 荒木純子

夏去りて人影もなく過疎の駅
風爽やかに秋は澄みゆく

愛犬を亡くした庭に小鳥来て

なぐさめくれる初冬の朝に 織田みね子

金銀の砂撒くごとく狭庭辺に

木犀散りて夕べ華やぐ

細く浮かぬわが血脈に「ごめんね」と詫
びつつ

受けし注射いくたび

川崎富士子

名月とよりそうような木星を

虫の音と共にしばし

渡り鳥列をつくりて飛んでゆく

そんな季節と空仰ぎ似る 加藤和恵

ふるりの収穫祭は休校舎

手紙生け花野菜の歓喜

紅葉の季いつしか前山枯葉色

緑の庭に山茶花の紅 長谷川敏子

ランドセル今届いたと弾む声

来年四月幼は一年生

天体ショー終えて輝く満月は

高く静かに新たな旅 山城京子

早朝に間近かで梵鐘とどきたり

霧たちこめる山里の家

鉄路沿いコスモス穂芒咲き並ぶ

廃線談義知るよしも無く 山本照子

つくし
庄原土筆短歌会

代表 橘 京子

こおろぎに親あり子あり妻あらん今鳴く
声はその夫ならん 講師 藤井逸馬
銃弾に倒れし人へ皮肉にも大きな音の弔
砲十九発

講師 藤井逸馬

ねずみ茸木の葉かづきやしめじ等なば採

り名人祖母思い出す 麻生多嘉子

百日紅いづこの木々も見事咲きわが家の

古木も命輝かせ 木山登久子

稲刈りを終えし田園走り行く一輛列車に

乗客見え 中島章雄

生前に夫が植えた桜木は老木なれど今

も元気に 山根博子

木陰に座し冷えたコーヒー手に取るとふ

と過ぎたる夫の面影 山根博子

稲刈りの鎌でそそくさ剥いた柿家族で食

べた甘き思い出 日雨孫厚子

時代劇善が勝ちて悪ほろぶ今の世の中そ

うはならない 板倉陽子

満月を眺めいる花月見草土手のなだりに

ひっそりと立つ 石丸一司

戦争を終わらせる術誰が知る持たないわ

れは野菜の種蒔く 松園和子

近隣も一人暮らしが増えておりデイサー

ビスも気にかかるなり 中間初子

柿さんが早く採ってと呼んでいる山も家

ぐるり黄金の山 鳥井幸恵

文豪が「戦争と平和」書いた国 人命軽

視に耳目を覆う 市川美南子

空白の時間を越えて友の声机並べたあの

日のように 池住紀世子

満月を拝して偲ぶ亡き人を野菊と青芒花

瓶にさして 大岡初枝

しのう
敷信短歌会

代表 寺迫隆子

切られたる定家かつらの一本がのこりし
夕を養命酒のむ 藤原勇次

切り口の年輪かこむ緑の芽いのち継ぐ音

やまにあふるる

ひな節句つきたて餅を指で切る亡母のす

ばやき指うかびくる

野仏に朴の葉脈うつりおり我もならびて

葉脈模様 奥井久子

紅色の羽毛をまとうきじ一羽荒畑わけて

我に寄りくる

あちこちに趣色した山現れてタラの芽摘

むと友と入りゆく

お茶の葉は笹におおわれ日の差さず新芽

のやわらかばちばち摘める 有附和子

大寒の朝の蛇口の水滴が手にとばしりて

心やすらぐ

鶯の朝を澄む声のすがすがしき空いっぱい

にシート広げる

はびこりしコロナウイルスとカタカナ語

老いの脳の疲弊は著し 寺迫隆子

ランドセルに手足あるごと帰りきて笑顔

に汗する新一年生

雪ふれば友なつかしと電話をし互いに励

ましもうひと踏んばり 永田恵美子

土壁と築山にあそぶ九歳の耳にはじけた

鳳仙花の音

水面の際をきり飛ぶつばめ上野の花はま

だ閉じたまま

櫻井貴子

はな
花ごぶし短歌会

代表 安川博子

白萩の風に揺れあさびしさに母の在り
し日思い出したり

栗は落ち柿の取られぬ色悲し高齢辛くわ

びしく生きる 遠藤順子

マスクしてステージ発表三年目役目果し

ぬ心の笑顔

コスモスの優しく揺れ咲く田圃道母の面

影浮かぶ花の道 神部ユキコ

路の辺に藍色深く群れて咲く野菊は凛と

秋の気を吸い

終戦日「勝利の日まで」口々にこれがま

ことか乙女心よ

山よ山花よ若葉よ山開き紅葉燃えたち有

終の美を 竹岡一枝

あどけなき園児等の舞う里神楽大蛇退治

におひねりの飛ぶ

出会いより訣るる人の多くなり野辺に茶

の花ほろほると散る

理不尽に裡安からぬ朝明けを清濁のみて

白霧の這う

りーりとひそやかな音に秋を聞く花を

切る手をしばし休めて

「楽しいよ」「まだ作りたい」粘土の皿体

験児童の見上げる瞳 日笠七枝

小春日に花台掃除す昼下がりに亡夫の咲か

せし菊鉢あまた

さりげなくカーネーションときんつばを

渡してくれたる嫁も母なり 三好米子

軒下に菖蒲を飾り厄払い「コロナ逃げて

よ」柏餅食ぶ

ひまわりの空のブルーに開花する平和を

願うウクライナの旗

何処より飛翔したるかアサギマダラ藤袴

の蜜を吸いおり 安川博子

陽ざし伸び春たけゆくを知る施設すみれ

菜の花描き野を偲ぶ 山本美智子

口和まんさく短歌会

代表 新宅道和

たつぷりと夜気を含みて山の樹は息嘯いきせうのごとく朝霧をうむ 講師 久保田智栄子
行者谷に積りし雪の解け初めて大山の水
つめたうまし
クリミヤの前線に送らるるといふまだ十
九なりウクライナの兵は 新宅道和
ゆらゆらと三和土さんわどに遊ぶ光線をたどれば
小さな天窓がある
むくむくと木々のみどりは盛り上がり五
月の風に地球ふくらむ 家島晶子
切符切る車掌さんいる満員のボンネット
バス絵日記の中
さわやかなパイヤサラダ完食をすれば
私はリトマスの青 舛岡慶子
父遺す牛ふん堆肥鋤き込めば畑の土が深
呼吸する
名を呼ばれ「はい」の返事でぼこぼこと
一年生はたけのこになる 古家八千代
学校の存廃決める出生数追い込まれつつ
消える集落
サツマイモ残してくれと懇願をすれども
猪との交渉決裂 吉方明美
ふるさとのリンゴ畑の幹齧る野ネズミを
狩る夜のフクロウ
寺坂にほのかに香るビワの花浄土へゆき
し友想いけり 田中 孝
手造りの銃に込めたる容疑者の恨みの底
の深さ見えざる
オリオンの臍を貫きシリウスにジェット
が向かふ明日の宙へ 釘貫英也
マスク越し呼吸整え合唱すウクライナへ
とへはるかな友に
飛び魚のごとく遊ぶよ子供たち秋空に映

ゆる（小坊主の丘） 安井和子
懐かしのウルトラマンの映画観る知らず
識らずに腕を交差す
西方の青と黄色の旗が燃ゆ空と小麦の畑
が燃えゆく 井上公秀

庄原思索する会 稲盛和夫氏は語る

坂村廣嗣

二〇二二年九月 NHKのテレビを見た
司会者
一〇〇年後の人類は
どのようなになっていきますかね

稲盛氏 しばらく考える
一〇〇億の人口をやしなうためには
人類全員が「利他の心」を持てば
救うことができるかもしれない

同氏が経営者として活躍した時代
世界では
アメリカによる湾岸戦争

湾岸戦争後
国連によるイラクへの経済制裁

二〇〇三年 アメリカ軍などが攻撃
フセイン政権は倒壊した
現在 ロシアによるウクライナ侵攻
六カ月経過しても解決しそうにない

日本では不況 倒産 好況のくりかえし
大変な時代に 会社経営をされてきた

世界がかかえている食料不足問題を
大局的な見地からみて
考えておられる姿勢はさすがだ

第三回庄原文芸大賞表彰式

令和4・6・4
庄原市ふれあいセンター



庄原市文化協会会長



庄原市教育長



会場風景

- | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|--|---|--|---|--|
| <p>《短歌》
大賞 母がタイムスリップ
佳作 折島 哲 桑原 知樹 奥井 久子</p> | | <p>《俳句》
大賞 白壁に波紋映して冬の池
佳作 木村 淳子 伊藤 紀子 三上 敏枝</p> | | <p>《川柳》
大賞 泣き事は言うまい今日も生きて
佳作 林 武志 荒木美智子 古本 文子</p> | | <p>《現代詩》
大賞 母がタイムスリップ
佳作 折島 哲 桑原 知樹 奥井 久子</p> | | <p>《短編小説・童話》
大賞 帰郷
佳作 古林 邦和 八谷 秀幸 門田 聖子</p> | |
|--|--|---|--|---|--|---|--|---|--|

庄原俳句会

代表 横山悦生

コロナの影響で句会をときどき休みましたが、俳句はいつものように発表しています。

池上恵美子

落書きも宝となりぬ子供の日
父の日や父つけし名をもて卒寿
読み初めや亀井静香著永田町
園の花見に来て家の桜見ず
昼寝する夫の遺影に見つめられ

三村静子

残雪を鳥たわむれ去って行く
われもこう畦いちめんに育ちをり
初取りのきゅうり供へて報告す
あだ花をつけてかぼちゃは弦伸ばし
笹飾り順番待ちて飾りし日

矢崎稔子

手花火の明かりに母の若き見ゆ
籬の歌聞きてみどり児寝付きたり
米野菜着きしと電話春の夕
雨の中東立ちの燕羽慣らす
野火の香を包みて峽の暮れゆけり

三上敏枝

解体の鉄骨光る日の盛り
下校の子水筒逆さ夏の空
パパの絵と大好きだよと星祭り
寒鰯の骨切る出刃の音太く
退院の姉の色白青田風

横山悦生

小径の遠流の道に蝮蛇草
十葉や浄土真宗大伽藍
千人塚生者に寄れる藪蚊かな
雪吊や格子戸残る三日市

あおまき

青牧俳句会

代表 横山悦生

宮本ひとみ

落葉焚き忘れたきこと赤赤と
鵜の艶逝き人の技返り花
コスモスに蝶の移り気思うまま
ゆるやかに流れて夏の農日記

大田野歩

村中の水が欲しい日代田掻き
薫風や米粉パン屋のライトパン
名月を玉乗りのごとく雲の様
独りよし凡句もよろし柿の花

山崎靖子

縁側に母居眠りするや石路日和
曲玉と思へばよけれ胡瓜取る
曲がりし腰山傾けて栗拾ふ
寝た切りに母の声かも梅雨晴れ門
近政康子

しかめつらしつつ田植いちご喰う
朝顔に我より高き棒持たせ
名月や座布団一枚人一人
秋の蠅吾を見据えて構えけり
八谷和子

立葵隣家にひびくピアノかな
てのひらで豆腐を切る子夕蛙
一昔前の医学書本の実降る
知らぬ道辿りてみだし秋日和
横山悦生

横山悦生

試食とて一つまた一つ吊し柿
父の日や父似の染みが顚顚に
人去らば古里朽つる鰯雪
新涼や露地で出来たる農耕馬
峽の田に世界地図のこと雪残る
友の柩担ぎて数歩三冬尽く

庄原詩話会

代表 坂村廣嗣

カイツブリ49号発行

庄原詩話会はKAITUBURI四十
九号を令和四年十二月に発行した。

国利義勇先生から学んだこと

一、学級文集・詩集づくり
二、地域レポートの作成

詩を書く

東城中学校二年A組担任 坂村

詩を書く 昨日のことを書く
今日のことを書く
もつと前にあったことを書く
ずつとずつと先のことを書く

詩を書く 嬉しかったことを書く
悲しかったことを書く
きれいだと思ったことを書く
心に残っていることを書く

詩を書く 自然の美しさを書く
四季の美しさを書く
動物のことを書く
植物のことを書く

詩を書く
父母に話したいことを書く
先生に話したいことを書く
登校・下校でみつけたことを書く
教室であつたことを書く

詩を書く

詩を書く なんでも書く
どんなことでも書く どんどん書く
思考の続くかぎり

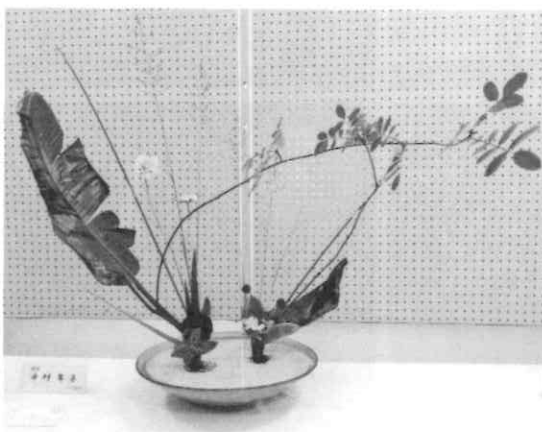
池坊・小原流・龍生派 花展

代表 中村年子

令和4・7・23〜28

食彩館しょうばらゆめさくら

夏の自然を生けました。



第11回 みんなの文化発表会

集って・話して・笑って 元気！

庄原市文化協会比和支部

令和4年11月27日(日) 比和自治振興センター



ー比和自治振興区ー ブナの森通信

比和牛飼養田植を備北丘陵公園で披露しました。



第44回くちわ文化祭

庄原市文化協会口和支部は、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら口和自治振興センターで『作品展』と『芸能祭』を開催しました。

『作品展』

令和4・10・21～23

12団体の作品が会場を鮮やかにいろどりました。

【出展】 編み物・生花・手芸・絵手紙・油絵・パッチワーク・短歌・フラワーアレンジメント・書・小学生ポスター



『芸能祭』

令和4・11・27

一昨年は動画配信、昨年度は午後のみの開催でしたが、今年は久しぶりにステージでの一日開催となり、会場は懐かしさと楽しさで大変盛り上がりしました。

9団体が日ごろの練習の成果を力いっぱい舞台で発表しました。

【出展】「大正琴」・「フラダンス」・「バイオリン・ピアノ」・「合唱」・「フラメンコ」・「和太鼓」・「日本舞踊」・「よさこいソーラン」・「バンド演奏」



大正琴



フラダンス



バイオリン・ピアノ



フラメンコ



和太鼓



よさこいソーラン



日本舞踊



バンド演奏

秋「口和音頭・ひょうたん音頭」



冬「和太鼓」

春「向泉の田楽」



夏「湯木の盆踊り」



口和中学校文化祭

『口和の四季』

令和4・11・6

口和中学校では、伝統芸能継承のため、毎年文化祭で「口和の四季」を発表しています。

生徒達は、地域の方から、伝統芸能の演じ方だけでなく由来や歴史も学び先人の思いや願いを感じながら、3年生を中心に練習を重ね保護者や地域の方の前で披露しました。



第10回 東城ふれあいステージ兼 備北地区フェスティバル庄原大会予選会

令和4・10・15
東城文化ホール

3年ぶりとなる東城ふれあいステージを開催しました。

開催の可否を慎重に検討し、感染予防対策を十分にすることと、開催にこぎつけました。

各団体とも、コロナ禍で、発表の機会がなく、久々のステージでもあり、出演した10団体は、元気一杯のステージになりました。

特に、東城中学校吹奏楽部の生徒たちは、3年間で初めての本格的なステージで、関係者は大変喜んでおられました。



第18回 東城町美術展覧会

令和4・11・26～28
東城文化ホールロビー及び
学習室1・2、研修室

庄原市教育委員会東城教育室と庄原市文化協会東城支部が主催して、18回目となる令和4年度東城町美術展覧会を開催しました。

今年も、新型コロナウイルス感染予防のため、来場者に、検温と手指の消毒をしてもらい鑑賞していただきました。

開催期間は3日間とし、東城自治振興センターの大部分の部屋を利用して、多くの作品を展示することができました。

絵画9名と1グループ・書18名・写真15名、押し花6名、和紙ちぎり絵5名・絵手紙13名・陶芸10名・工芸1名・生け花28名の出品がありました。

また今年も、会場入り口付近に「東城茶華道同好会」の皆さんの合作による生け花の大作を展示していただき、華やか



な展示会場になりました。

さらに、花こぼし短歌教室の皆さん7名に、短歌の出品もしていただきました。

今年も、書に6名の高校生・2名の中学生・7名の小学生の出品があり、広い年代が参加する町美展となりました。短期間の開催でしたが、充実した町美展になりました。

第25回 絵本原画展

令和4・10・16～30
東城まちなか交流施設「えびす」

「はたこうしろうの世界」

庄原市教育委員会東城教育室、庄原市文化協会東城支部とこの本だいきの会東城支部は、25回目となる絵本原画展を開催しました。

今回は、「はたこうしろう」さんの絵本原画「はじめてのオーケストラ」を展示しました。



また、10月25日には、小奴可こども園で『えほんであそぼう! じゆうにあそぼう!!』というテーマで、「はたこうしろう」さんの園児向けワークショップと、一般対象のお話がありました。参加した保護者や地域の人たちが熱心に聞き入っていました。

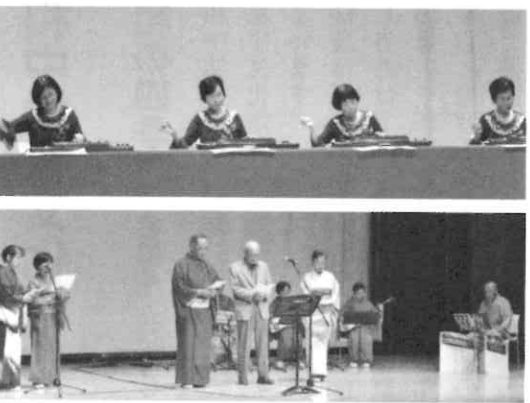
夏休み子ども体験教室

令和4・8・3 4・18
東城自治振興センター

東城自治振興区と庄原市文化協会東城支部が連携して、夏休み子供体験教室を実施しました。

会員が指導して、陶芸は、「葉っぱの皿づくりと絵付け」、いけ花は、「季節の花のアレンジメント」、和紙ちぎり絵は、「ひまわりの花」に挑戦しました。

参加した子ども達は、作品を通じて夏休みの良い思い出ができたと思います。



高野町の文化

郷土の偉人 瀬尾義秀氏

1 略歴

瀬尾義秀氏は比婆郡高野山村（現在庄原市高野町）字高暮出身で、新市の尋常小学校卒業後苦学して広島師範学校に学び、教育畑を歩み、昭和2年専修大学卒業後は同校教授となり、昭和13年10月駿台商業学校長兼理事長となって以来学園経営に腐心した。その後、東京女子医科大学の教授。第二次世界大戦中、生徒は動員を受けて、その数20余名に減少。戦災にあって校舎は全焼したために、自宅を開放して授業を続けたことは、私学教育界の語り草となっている。

氏は幼少より文才に秀で、14歳のとき芸日日々新聞募集の懸賞文に第1位で当選、文学雑誌に度々投稿したのが縁で倉田百三、細田民樹との交遊も深く、又政界では永山忠則、宮沢喜一、同級生（新市尋常小学校）には宮田武義、門下生には八谷泰造（日本触媒工業社長・工博）、永田（大映社長）等があり、交遊の幅も広い。

2 校歌の作詞

高暮小学校 1955年

- 一 大船山が 我等をみまもる 山を学ぼう 動かぬ姿を
責任強い 我が父のように

高野中学校 1971年

- 一 春日部多賀の跡古き 名に負う故郷の若桜
教えの東風に生まれ 文の花咲け七重八重

東小学校 1966年

- 一 祇園の森に 朝日が昇る 桜が丘の 校舎の雀
今日も元気で 羽ばたきだした 我らも励もう 進取進取

※校歌制定の目標

校歌制定の目標は、①全員が歌いやすいこと ②地域の歴史や自然のありさまが歌詞のなかに歌いこまれていることなどであると思うが、ここにとりあげた校歌は、どちらもみたしていると思う。

3 駿台学園中学校・高等学校の創立

東京都北区王子

(1) 代表者 理事 瀬尾秀彰

(2) 学校の沿革

1932年 駿台学園誕生

1938年 瀬尾義秀、理事長、校長に就任

1946年 校名を駿台高等学校に変更

1958年 駿台学園中学校・高等学校に校名を変更

1966年 瀬尾義秀氏勲三等瑞宝章受章、東小の校歌を作詞

2008年 教職員数 男性 74人 女性 33人 合計 107人

生徒数 中学校 322人

高等学校（全日制）788人 高等学校（定時制）160人



駿台学園の校長講義（昭和31年・65歳）



比婆郡山内東村立山内東尋常高等小学校生徒と（大正8年・28歳）



駿台学園野球部の創立（昭和34年・68歳）

子ども文化教室 総領支部

教育委員会からの委託事業として庄原市文化協会が受託しました。文化に関する子ども対象の新事業です。総領支部が受け俳句教室を総領小学校で行うことになり、指導を鈴木厚子先生にお願いしました。第一回は七月七日(木)、俳句とは五音・七音・五音の十七音で詠むこと。その中に季語を入れることを話され「夏と言えは何を思いますか」の問いに児童から「暑い・汗・スイカ・氷・アイス・ひまわり」等、夏に関する言葉が返ってきました。この日は、七夕を題材に吟行(笹飾りを見て・触って・匂って)を行い五感で感じたことを児童が句にしました。中には夜空を想像し空の様子・家族と過ごしたことを句にした児童もいました。



第二回は十月二十六日(水)会場には、さつま芋・アケビ、栗等々、秋の実りやススキ等の草木も並びました。小学校の先生方の御好意でふかし芋が登場。食べた感じが詠んだ児童や九月十日の中秋の名月を思い出して、その様子を詠む児童もいました。指導を受ける前は、五・七・五に納めることで終わっていました。全員の句を鈴木先生が丁寧に読み、「よくわかる俳句だね」「そう思ったんだね」「季語が二つあるね。あつても良いものもあるからね」と選評をしてくださいました。今回の俳句教室がきっかけで来年度からは総領支部の事業として引き続き鈴木先生の指導を受けることとなりました。



庄原市文芸大会入賞者作品展「しょうばらの文化」の展示

令和5・3・8～10
アート多愛夢



庄原市文化協会役員会

令和4・5・10
庄原市ふれあいセンター

- (1) 第3回庄原文芸大賞「表彰式」について
《短編小説・童話》《現代詩》
《短歌》《俳句》《川柳》
- (2) 令和4年度庄原市文化協会定期総会について
①日時 6月4日
②場所 ふれあいセンター
③総会・表彰式案内らし



植物の細密画の作品展

令和4・5・8～10
アート多愛夢

自然を見つめよう会

(発足) 平成五年六月～現在

(目的) 山野の植物を通じて自然の営み

を知るために観察をし、これらの植物を覚えるために細密画を描いており、屋外の観察も楽しく行っております。

(活動内容)

私たちは会員は花や樹木の好きなメンバーの集まりです。

会員は現在(庄原市・三次市在住者)です。

年間の観察場所は会員の希望を中心に計画を立てており、屋外観察会は年八回、屋内講座(植物の講義、細密画の実習)四回です。

伊藤之敏先生の講義はとも内容が深く、興味深い話が多くて楽しいです。

会長 片岡伸枝



細密画

パッチワーク・キルト 「ポコ・ア・ポコ」作品展

令和4・6
アート多愛夢

「ポコ・ア・ポコ」とは、イタリア語で「少しずつ」という意味です。一人一人の生活リズムや体調に応じて、急がず焦らず、「少しずつ」やっていきましようというコンセプトで名付けました。

今回の「はらみちを絵画の絵キルト」は、描かれた懐かしい風景や溢れる母子の愛情・表情をいかに布で表現するか、悩みながらも楽しく作製しました。その他の作品も、本やウェブを参考にしながらも、色や雰囲気「独創性」を加えるように心掛けています。月二回の集まりの中、お喋りだけの日があっても良い、先ずは元気で集うこと、これは作品制作以上に大切なことだと確信しています。(今回の絵キルトは「はらみちを美術館」の特別許可を得て作成しました。)

グループ代表 福谷美季



草木染とパッチワーク二人展

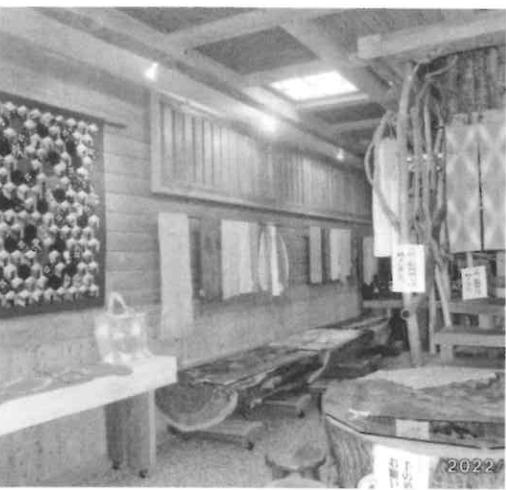
代表 咽原ちひろ
令和4・7・8～10
アート多愛夢

ゆったりとした空間のギャラリー「アート多愛夢」で2回目の二人展をさせていただき感謝しています。

二人とも日常に溢れる色や形に心をときめかせ、針仕事が好きでパッチワークや小物作りが好きな立石さんと描くことが好きでろうけつ染めと草木染を続けてきた私。

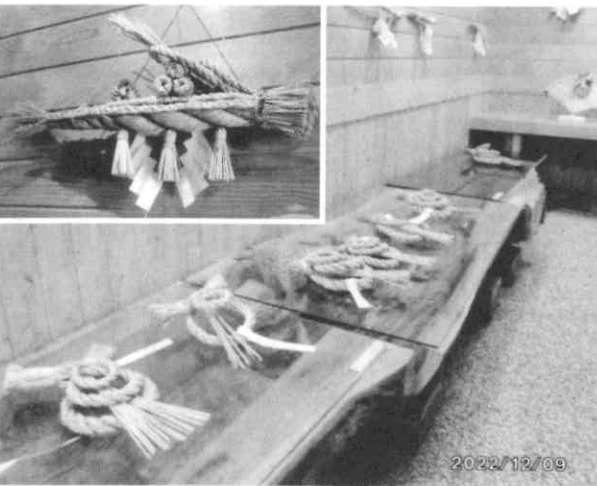
特別なものではありませんが、こんな二人の作品を多くの皆さんに観ていただき、そしておしゃべりして楽しんでもらえたのではないかと思います。これからもたくさんのお会いを持ちながら作品作りに励みたいと思います。3日間ありがとうございました。

パッチワーク 立石かよ子
草木染 咽原ちひろ



わら細工及び高齢者作品展

令和4・12・9
アート多愛夢



日本水彩画会広島県備北支部 第50回水庄展 二〇二二

令和4・9・15〜18

庄原市田園文化センター

出品目録

青木 照和

①川辺新春

市川美南子

②県大生Sさん

今村 浅香

①谷 ②春

碓井 節子

①庭の花 ②初秋

沖田 輝彦

①梅雨 ②初夏

音谷 健郎

①三叉路のある町

垣内 文子

①帰郷 ②未来へ

川上 晶子

①大山

河面 浩子

①秋の味覚 ②やすらぎ

坂本 義明

①夏の棚田 ②懐古

高田 正樹

①ひまわり ②あじさい

高松 光英

①風薫る山里

竹岡 敦子

②初夏の古里

竹原 朝美

①ある冬の日

田中 節子

①猿飛岩

田中 強

①神野瀬の秋 ②希望

堤 和之

①春の息吹 ②ミモザの花

戸井 妙子

①天空の里 ②山麓待春

中村 勝

①馴染みのピク

橋本みゆき

②窓辺にて

日高 久子

①雪降る休日 ②母の日に

福田 善子

①静物 ②風景

藤原 玉江

①夏の花

本田 則子

①冬の夕日 ②春には社会人

安好 芳子

①春の里山 ②好日

山下 徳三

①里の流れ

②アーティチョーク咲く

①山里の春 ②雨上がり

①五月の木次線

②ジンジャー

第108回 光風会展 二〇二二

令和4・7・5〜10

広島県立美術館

題名『大山への道』油絵100号

藤原三幸

一念発起し『光風会展』にチャレンジしました。

大山は季節が廻るごとに行きたくなる山です。雄大さと荘厳さを感じる山です。どう向き合うか表現の拙い自分は迷いの連続ですが、ほんの少しだけ山が褒美をくれたと思う瞬間に出会います。そんな力を信じて筆を執りますが、完成度の高い多くの出展作品を見るにつけ、足らざるを深く思い知ります。魅力ある四季折々の作品を目指し次も挑戦してみたいと思います。



庄原思索する会

代表 坂村廣嗣

研修会は月一回 最終水曜日

〔活動の記録 二〇二二〕

庄原市の社会福祉活動

未果でぬ民主

議会報告

敬天愛人の思想

憲法について考える

国民性について

チーズ工房 乳いずの物語

庄原市の中心部活性化について

除草剤マメットSMの魚毒性

除発問題 二つの日の丸

三谷寺・神福寺・東光寺 (寺岡・坂村)



第八回庄原書道墨友会展

令和4・9・22〜25

庄原市田園文化センター

流派を越えて活動する「庄原書道墨友会」(平岡慶舟会長)の第八回書道展が庄原市田園文化センターで開かれました。高校生や書道愛好家らが出品しました。

本年度も、世相を反映した川柳作品が多数展示してあり、展示会場のふんいきを盛り上げていました。

開催期間中、コロナ禍ではありましたが、心配していた大型台風もさつて、多くの来館者があり、盛会のなかで終了しました。



第6回 庄原さくらフェスティバル

令和4・4・10
庄原市上野総合公園芝生広場

昨年度から継続していたコロナ禍が、本年度も終息しなかった。そのような状況のなかで、本年度の庄原さくらフェスティバルの実行委員会は、完全な防止対策をしたうえで、実施することに決定された。

庄原市文化協会からは、「西城ブルーハーモニー吹奏楽団」と「永江太鼓保存会」が参加。両代表からのメッセージ。

西城ブルーハーモニー吹奏楽団

私達は毎週金曜日の午後十九時三十分からウイル西城2Fホールで練習しています。メンバーは学生、社会人と幅広く世代を超えて音楽を楽しんでいます。音楽をやってみたい方はどうぞお気軽にきてみてください。

毎年十二月には星降る夜のコンサートを開催しています。今年も感染症の影響で活動を自粛するという、本来の音楽を楽しむという事が出来ない時もありました。それでも可能な範囲で皆さんのご協力の中、演奏させて頂く機会があり、あらためて音楽をできる喜び、ありがたさを感じたのはとても新鮮な気持ちでありました。

この度も、庄原さくらフェスティバルで演奏させて頂き有難うございました。難しい社会情勢の中、感染症対策を徹底されて開催されました事に感謝し、お礼申し上げます。会場の皆様の温かいご声援

が、私達にあらたな勇気と力となり、これからも音楽活動を出来る限り続けていきたいと思っています。

代表 伊藤 郁夫

永江太鼓保存会

我々、永江太鼓は年齢を問わず、男女を問わず、職業を問わず、太鼓を愛する者が集まり、太鼓を打つことで自らが感動し聴く人に感動を与え「庄原を元気に」、「県北を元気に」をモットーに年間二十公演を目標に頑張っています。

現在三十六名の会員は庄原を愛し、県北を愛し、地域に根差した活動が続いています。

今現在、「比婆夜叉姫」という、神楽と和太鼓のコラボ曲と永江の子供たちの曲「永江山彦太鼓」を中心に二、三曲を演奏させて頂いています。

この「比婆夜叉姫」という曲は、永江太鼓ができる前は、「庄原神楽団」という神楽団体でしたので、神楽の衣装、大蛇など譲り受け太鼓だけじゃなく神楽も残して行こうと、苦心、研究を重ねできた曲です。

一昨年からコロナの影響で公演は無くなり練習にも身が入らなくなっていました。いろいろなイベントがあれば、お声がけ、よろしく願っています。

この度、さくらフェスティバルに出演させて頂き、感染症対策の中で太鼓を叩く喜び、見て頂く喜びを再び味わわせて頂きました。

スタッフの皆様にご感謝しお礼申し上げます。

代表 山口 真樹

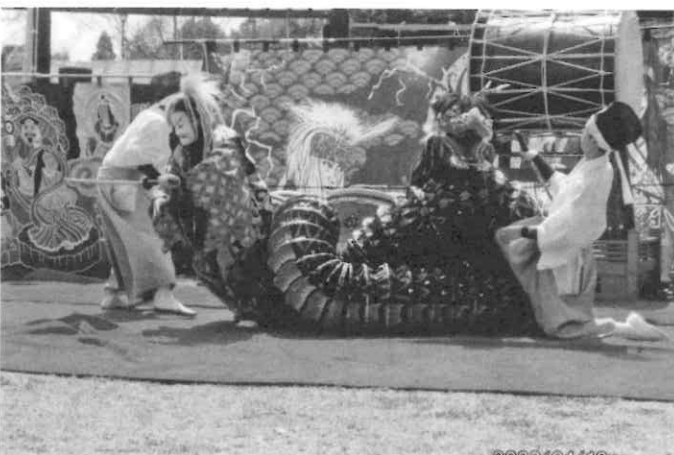


2022/04/10



2022/04/10

西城ブルーハーモニー



2022/04/10



2022/04/10

永江太鼓保存会

第18回 庄原絵手紙大賞作品展

令和4・10・9
庄原市役所

十月九日、庄原市役所に於いて、「市民ギャラリーアート多愛夢運営協議会」が主催した第十八回庄原絵手紙大賞の表彰式を開催しました。子どもの部、一般の部合わせて二三七作品(子どもの部、一五九作品・一般の部七八作品)が寄せられました。当日は日曜日ではありませんでしたが、多数の出席がありました。

庄原絵手紙大賞入賞者

子どもの部

○大賞(1点)

二上 陽太(高小学校)

○優秀賞(3点)

藤川 優奈(高小学校)

垣内 優希(比和小学校)

幹戸 葵(口和中学校)

○奨励賞(10点)

道下 鍊志(東小学校)

垣内 美咲(比和小学校)

徳永 千咲(高小学校)



子どもの部 大賞 二上 陽太



一般の部 大賞 井上 澄子

一般の部

○大賞(1点)

井上 澄子(東城町)

○優秀賞(3点)

津秋 利子(比和町)

中村 朝恵(口和町)

吉政 澄江(実留町)

○奨励賞(10点)

平田 次江(高町)

三宅 智恵(高町)

倉岡 聖子(峰田町)

片岡 義之(七塚町)

地子給貴美子(東城町)

榎原美代子(東城町)

政森 和子(東城町)

石富まちこ(口和町)

定本恵美子(口和町)

澤田かず子(口和町)

水庄会庄原赤十字病院小品展

令和4・11・12新作品展示
庄原赤十字病院ロビー

水庄会は庄原赤十字病院ロビーにおいて、年間を通して作品を展示し、患者様、付添いで病院を訪れた方々の心を和ませています。作品は三ヶ月毎に取り替えています。今回で三十六回目ですが、新型コロナウイルス感染拡大のため緊急事態宣言延長によって今年は取替の時期に幅を持たせています。二十一作品は次の通りです。

青木 照和	「野火」	市川美南子	「華」
碓井 節子	「初秋」	音谷 健郎	「溜め池のある風景」
柿内 文子	「流扇華」	川上 晶子	「秋桜」
戸井 妙子	「ほおずき」	河面 浩子	「旅立ちの学生」
高田 正樹	「谷間へ」	高松 光英	「風かおる江の川」
竹岡 敦子	「クリスマス近し」	田中 強	「ネッカチーフの女」
本田 則子	「栗実る季節」	堤 和之	「ドール」
中村 勝	「モデル B」	橋本みゆき	「コスモスの花」
福田 善子	「里の冬」	藤原 玉江	「からすうり」
安好 芳子	「鈴なり」	山下 徳三	「山里待春」
竹原 朝美	「海に咲く華」		

令和三年度 けんみん文化祭21文芸祭

川柳(高校生・一般の部)

入選

誘い水過去がボコボコ湧いて出る

荒木美智子(庄原)

編集後記

本年度は、コロナ禍で大変きびしい時代でありましたが、会員の皆様のご協力により、「第3回庄原文芸大賞表彰式」「第18回絵手紙大賞作品展」「令和4年度庄原文芸大会入賞者作品展」を実施することができました。

けんみん文化祭ひろしまや当市が実施しました各種大会に参加され、各賞を受賞された皆様、おめでとうございます。次回もより多くの皆様に参加され、当市の芸術、文化の発展に寄与していただければと思います。

本紙に対する問い合わせは、
0824-17212338まで
(坂村)

